

ASEAN

若年層を対象とした 持続可能な観光に関する調査 報告書 (ダイジェスト版)

2023年2月

調査実施：
株式会社REGION

I 調査の目的・概要

II 設問内容

III 調査結果

調査の概要

本アンケートは、国際機関日本アセアンセンターによる「若年層を対象とした持続可能な観光に関する調査業務」の一環として実施。旅行好き、あるいは旅行に興味がある日本のZ世代とミレニアル世代の15歳～35歳を対象として、ASEAN加盟10カ国への旅行経験や今後の旅行意欲、サステナブルツーリズムに対する意識などを多角的に調査した。

調査の目的

旅行好き、あるいは旅行に興味がある日本のZ世代とミレニアル世代の15歳～35歳を対象に、「SDGs」や「持続可能な観光（サステナブルツーリズム）」といったキーワードに対する感度や、レスポンシブルトラベラーとしての意識、東南アジア観光への関心などを探る。また、ソーシャルメディアの活用などについても調査し、日本の若年層に対するプロモーションの参考とする。

調査手法

楽天インサイトが保有するアンケートモニター15歳～35歳の男女を対象に、「海外、国内問わず旅行が好き、または旅行に興味があるか」という質問でスクリーニング。「非常にあてはまる」と回答した555人と、「まあまああてはまる」と回答した445人の合計1,000人が、48項目の質問に回答。

調査実施期間

2022年12月16日（金）～19日（月）の4日間

調査対象者

海外、国内を問わず旅行が好き、または旅行に興味がある日本の15～35歳の男女1,000人
* 旅行が好き・旅行に興味がある人への調査であり、性別は女性が多く、年代は均一ではない

II 設問内容-1

*本ダイジェスト版には入れていないものも含まれます。

<スクリーニング調査>

設問タイプ	質問番号	設問文	備考
SA	SC1	海外、国内問わず旅行が好き、または旅行に興味がありますか。あてはまるもの一つお選びください。	

<基本情報>

設問タイプ	質問番号	設問文	備考
SA	Q1	あなたの性別をお答えください。	
SA	Q2	あなたの職業をお答えください。	
SA	Q3	あなたの職業は以下の分野に関連していますか。あてはまるものをお選びください(学生の方は、専攻分野で関連するものがあればお選びください)。	
SA	Q4	海外旅行の経験はありますか。	
SA	Q5	どのような形で海外旅行をしましたか。一番最近の海外旅行について、あてはまるもの一つお選びください。	
SA	Q6	一番最近の海外旅行について、旅行先を決定した「決め手」となるのは、どんなことですか。あてはまるもの一つお選びください。	
MA	Q7	ASEAN加盟国に行ったことはありますか。行ったことのある国をすべてお答えください。(いくつでも)	
SA	Q8	これから、海外旅行に行きたいと思いませんか。	
SA	Q9	どのような形で海外旅行をしたいと思いませんか。最もあてはまるもの一つお選びください。	
MA	Q10	ASEAN加盟国で行ってみたい国を3つまでお選びください。(3つまで)	
MA	Q11	ASEANの観光で、思い浮かぶイメージを以下から3つまでお選びください。(あるいは体験したいことについてお選びください)。(3つまで)	
SA	Q12	もっともよく利用している情報源、情報収集ツールを教えてください。	
SA	Q13	海外旅行の情報収集源として、どのソーシャルメディアをもっともよく利用していますか。1つお選びください。	

<持続可能な観光に関する意識>

設問タイプ	質問番号	設問文	備考
SA	Q14	SDGsという言葉をご存知ですか。	
SA	Q15	サステナブル(持続可能)という言葉をご存知ですか。	
SA	Q16	普段の生活でSDGsやサステナブルという言葉を意識して行動することはありますか。	
SA	Q17	旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識したことはありますか。	
SA	Q18	旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識した観光地や観光施設を選んだことはありますか。	
MA	Q19	どういった基準でサステナブルを意識した観光地や観光施設を選びますか。あてはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)	
SA	Q20	宿泊予約サイトの「ブッキング・ドットコム」や「楽天トラベル」などでは、サステナブルな取り組みを行っている宿泊施設を絞り込んで探すことができます。こうした取り組みについてご存知でしたか。 ブッキング・ドットコム https://partner.booking.com/ja/travel-sustainable 楽天トラベル https://travel.rakuten.co.jp/mytrip/news/2022-11-21	
SA	Q21	実際にこうした絞り込み条件を使って、宿泊施設を検索あるいは予約したことがありますか。	
SA	Q22	サステナブル・ツーリズム(持続可能な観光)という言葉をご存知ですか。	
MT	Q23	以下の3つはサステナブル・ツーリズムに必要とされる取り組みです。それぞれについて、あなたの考えはどれですか。 参考:UNWTO「持続可能な観光の定義」 https://unwto-ap.org/why/tourism-definition/	

<レスポンスフルトラベラーとしての意識>

設問タイプ	質問番号	設問文	備考
SA	Q24	あなたは観光で訪れた地域の事業者(農家、地域に根ざした宿泊施設やお土産製造会社などに)、確実に利益をもたらす消費をしたいと思いませんか。	
SA	Q25	自分が訪れることで、旅行先の地域の持続可能性に何らかの形で貢献できるとしたら、積極的に関わりたいたと思いませんか。	
SA	Q26	例えば同じ5,000円で内容もほぼ同じオプションツアーが2つあり、1つは「自然保全、地域への利益還元、CO2排出削減などの持続可能な取り組みをしている」と具体的に明言している場合、自分の考えに近いのはどれですか。	
SA	Q27	持続可能な取り組みをしているオプションツアーが、そうでない同じ内容のツアーより価格が高い場合、自分の考えに近いのはどれですか。	
SA	Q28	1人あたりどれくらいまでの差額なら払っても良いと思いませんか。	

II 設問内容-2

<ASEANの「持続可能な観光」に関する意識>

設問タイプ	質問番号	設問文	備考
MA	Q29	ASEAN加盟国で持続可能な観光に力を入れていそうな国は？と聞かれたら、どの国を思い浮かべますか。3つまでお選びください。(3つまで)	
SA	Q31	この取り組みは、ニュースや新聞記事などで取り上げられましたが、ご存知でしたか。	
SA	Q32	3年半、観光客の入域を禁止した取り組みについてどう思いますか。自分の考えにもっとも近いもの一つをお選びください。	
SA	Q33	「オーバーツーリズム」という言葉を聞いたことがありますか。	
SA	Q34	オーバーツーリズムとは、観光地を訪れる旅行者の増加により、住民生活や自然環境などにマイナスの影響を及ぼす現象を指します。ピピ島のように、観光客にとって多少の不便が生じて、観光地側が環境を守るために訪問時間や人数を制限するなど、オーバーツーリズム緩和に向けた取り組みを行うことについて自分の考えに近いのはどれですか。	
SA	Q35	オーバーツーリズム回避や混雑緩和のため、世界でも日本でも美術館がチケット販売を事前予約制にしたり、観光施設がリアルタイムの混雑状況をSNSで発信するなどの取り組みも出てきています。こうした取り組みについて自分の考えに近いのはどれですか。	
SA	Q36	このプログラムは日本の教育旅行にも取り入れられていますが、こういうプログラムがあることを知っていましたか。	
SA	Q37	このプログラムに参加してみたいと思いますか。	
SA	Q38	「ホームステイプログラム」のように、観光客が観光を通じて地域の発展に貢献できるプログラムはASEANの他の国でも色々作られています。そうしたプログラムについてもっと知りたいと思いますか。	
SA	Q39	このリゾートについてどう思いますか。	
SA	Q40	価格やサービス、雰囲気などがほぼ同等のリゾートと比較した場合、ニヒスンバが地域の雇用や医療に貢献していることは、宿泊先の選択にどのくらい影響しますか。	
SA	Q41	この農園についてどう思いますか。	
SA	Q42	価格や内容などがほぼ同じプログラムと比較した場合、この観光プログラムが地域で営まれる農業の維持に役立っていることは、選択にどのくらい影響しますか。	

<ASEAN及び日本アセアンセンターの取り組みについての質問>

設問タイプ	質問番号	設問文	備考
SA	Q43	ASEAN10カ国では、このほかにさまざまな持続可能な観光に関する取り組みが行われています。そうした取り組みについて興味がありますか。	
MA	Q44	そうした持続可能な観光の取り組みについての情報を知るには、どういったメディアや経路なら入手しやすいと思いますか。(いくつでも)	
SA	Q45	そうした持続可能な観光の取り組みを知ることは、次の旅行先を決めることに影響しますか。	
SA	Q46	ソーシャルメディアでASEAN10カ国の持続可能な観光の取り組みについて知るには、どのような発信者の情報が参考になると思いますか。最もあてはまるものをお選びください。	
SA	Q47	日本アセアンセンターでは「ASEAN Travel(https://travel.asean.or.jp)」という東南アジアの観光情報サイトを運営しています。このサイトを見たことがありますか。※上記のURLを必ずクリックしてからお答えください。	
SA	Q48	日本アセアンセンターはInstagramの観光公式アカウント(@aseanjapancentre、 https://www.instagram.com/aseanjapancentre/)を持っています。投稿を見たことがありますか。※上記のURLを必ずクリックしてからお答えください。	
SA	SEX	性別	
数	AGE	年齢	
SA	CHIKI	都道府県	
SA	NAGE	年代	
SA	NSEXNAGE	性年代	

III 調査結果

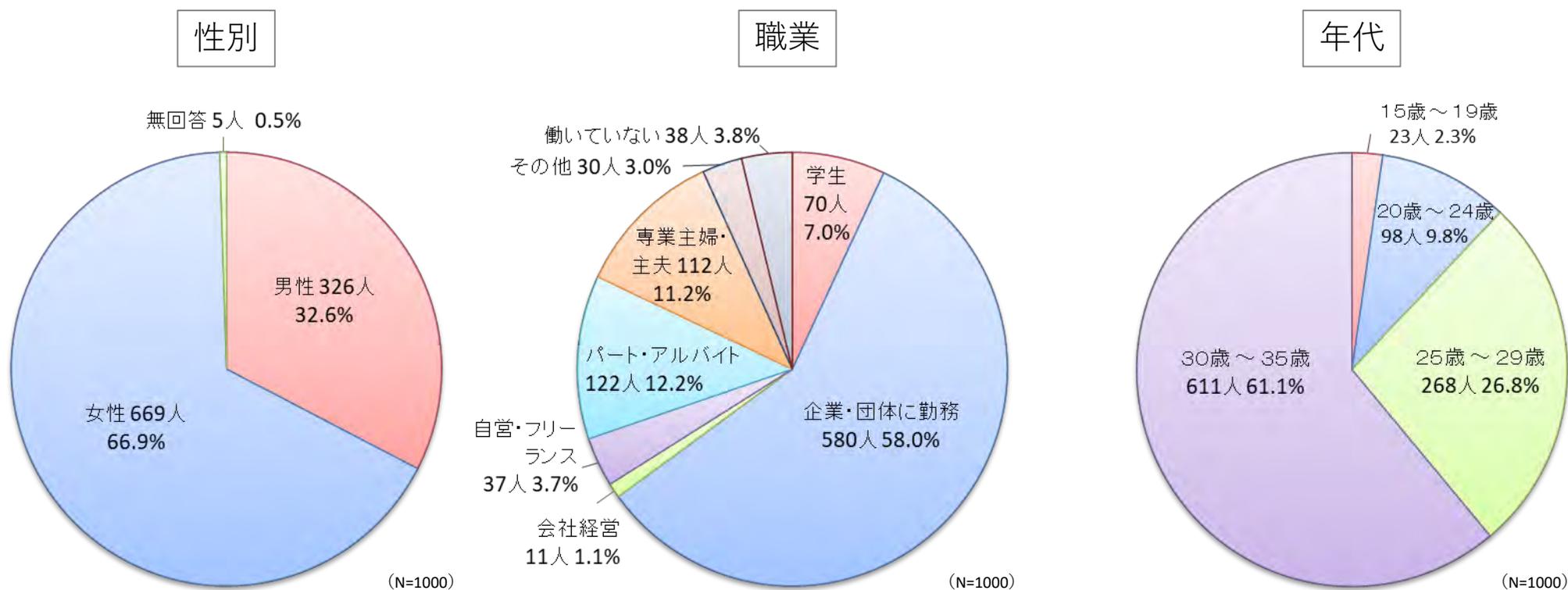
1. スクリーニング調査

回答者は女性が7割弱を占め、年代別では「30～35歳」が最多で約6割、次に多いのは「25～29歳」で3割弱

「海外、国内問わず旅行が好き、または旅行に興味がありますか」という質問に対して「非常にあてはまる」と回答した555人、「まあまああてはまる」と回答した445人の合計1,000人を本調査の対象とした。対象者の男女比は女性が7割弱、男性が3割強で女性が多く、職業別に見ると企業や団体に勤務する人が最も多い約6割を占めた。年代別に見ると「30～35歳」が最多で約6割を占め、次いで多い「25～29歳」は3割弱を占めた。

※本調査は、旅行が好き・旅行に興味がある人への調査であり、性別は女性が多く、年代は均一ではない

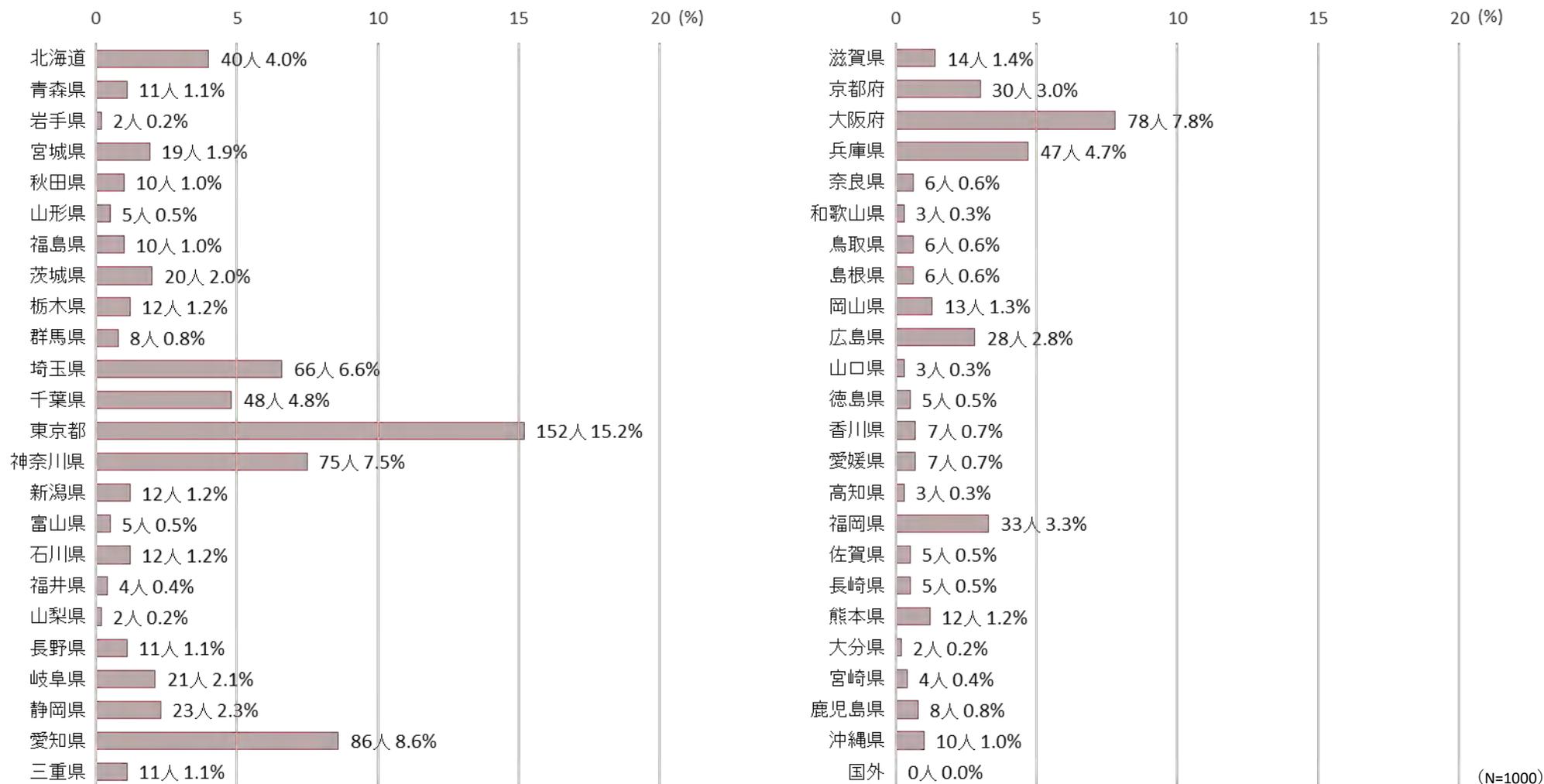
2. 基本属性



III 調査結果

1. スクリーニング調査

アンケートの回答者は、全国のさまざまな地域在住者。日本の人口分布に比例して、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫といった大都市在住者からの回答が多い傾向にあった。

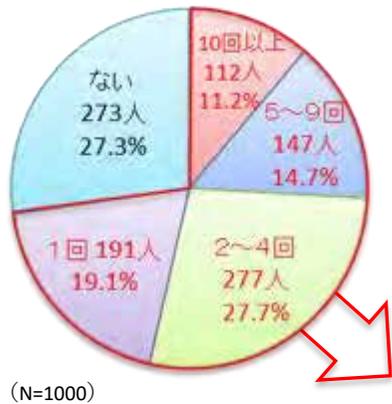


3. 海外旅行経験

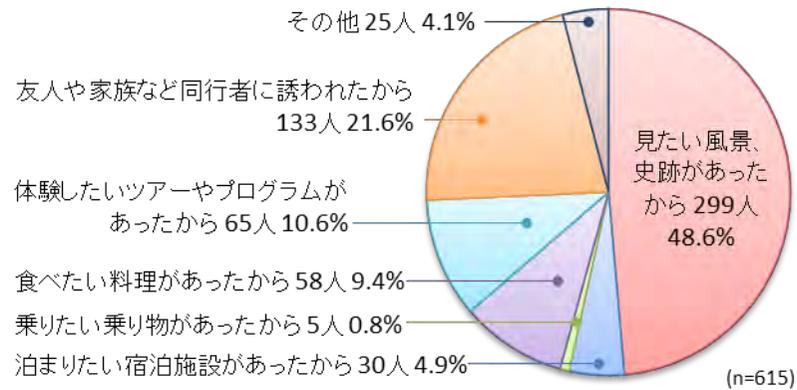
回答者の約7割が海外旅行を経験、最近の海外旅行の目的は8割が観光目的だった

回答者の約7割が海外旅行を経験しており、最も多かった旅行回数は「2～4回」で経験者の約3割を占めた。最近の海外旅行は8割が観光目的で、旅行先の「決め手」は「見たい風景、史跡があったから」が約5割で最も多く、次いで多かった回答が「友人や家族など同行者に誘われたから」で約2割を占めた。

海外旅行経験



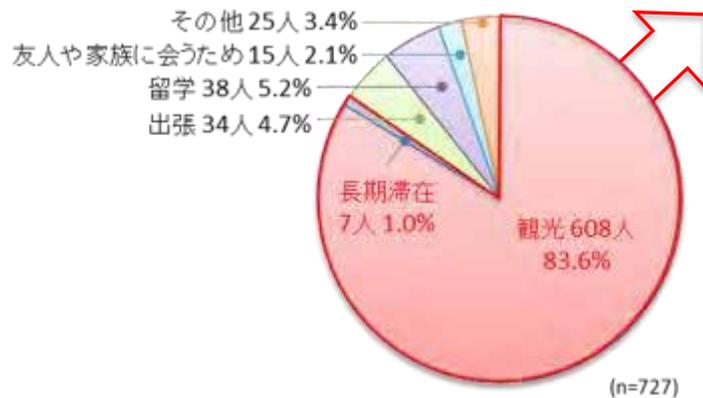
旅行先を決定した「決め手」



その他 25件 自由回答

- ・ショッピング
- ・その国が好きだから
- ・なんとなく
- ・なんとなく行きたかったから
- ・行きたいテーマパークがあったから
- ・異文化を味わいたかったから
- ・海が綺麗だから
- ・恩師に同行
- ・経験のため
- ・仕事
- ・社員旅行・・・2件
- ・修学旅行・・・3件
- ・修学旅行、社員旅行
- ・新婚旅行
- ・新婚旅行と挙式
- ・好きなスポーツチームのホームだから
- ・大学のイベント
- ・単純に年越しを海外で迎えてみたかった
- ・都合の日程・価格帯に航空券があるから
- ・日本人に対して友好的な人が多い国だから
- ・比較的安価だから
- ・美容目的

最近の海外旅行について

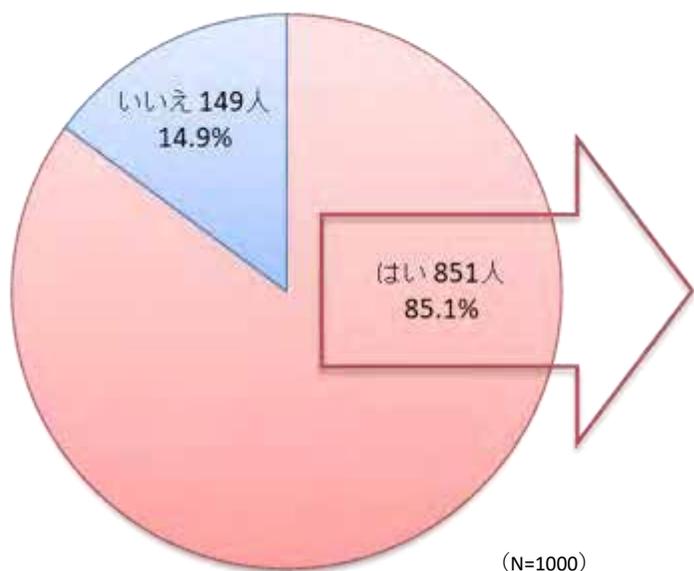


3. 海外旅行経験

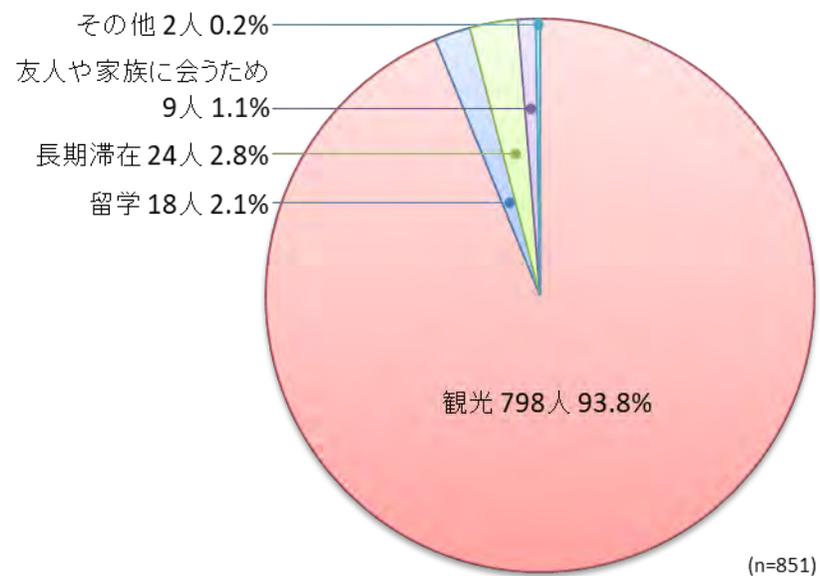
85 %が今後の海外旅行に意欲見せ、そのうちの94%が観光で海外旅行をしたいと考えている

「これから海外旅行に行きたいか」という問いに対しては85%が「はい」と回答しており、今後の海外旅行に対する高い意欲が見られた。また、どのような形で海外旅行をしたいかという問いに対しては、94%の人が観光と解答している。

これから、海外旅行に行きたいと思いますか



どのような形で海外旅行をしたいと思いますか



III 調査結果

4. ASEAN加盟国への旅行について

座談会
P12へ

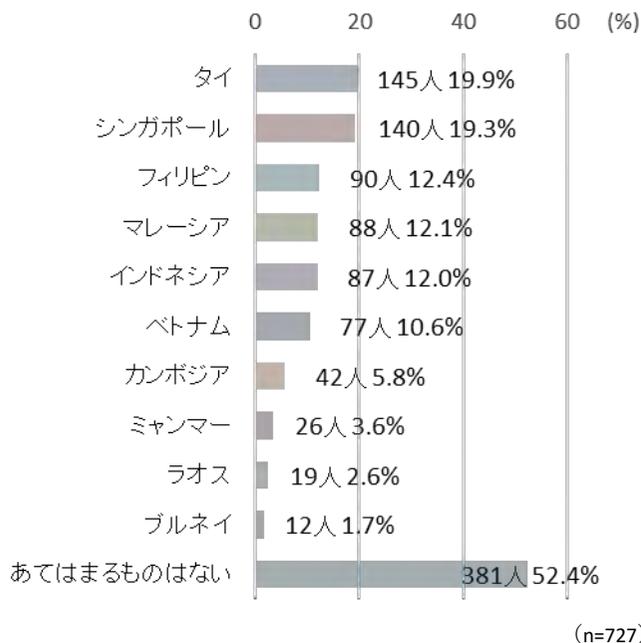
約半数がASEAN加盟国への旅行を経験、行った国のトップはタイ、行きたい国はシンガポールがトップ

回答者の約半数がASEAN加盟国への旅行を経験したと回答。「行ったことがある国」で最も多い回答はタイ、次がシンガポールで共に回答者全体の約2割を占めた。行ってみたいASEAN加盟国として最も人気が高かったのはシンガポールで約6割、次いでタイが4割強を占めた。ASEANの観光イメージとして最も多い回答は「グルメ」で約6割を占め、2番目が「歴史的遺跡」で約4割、3番目が「リゾートホテル」で約3割となった。

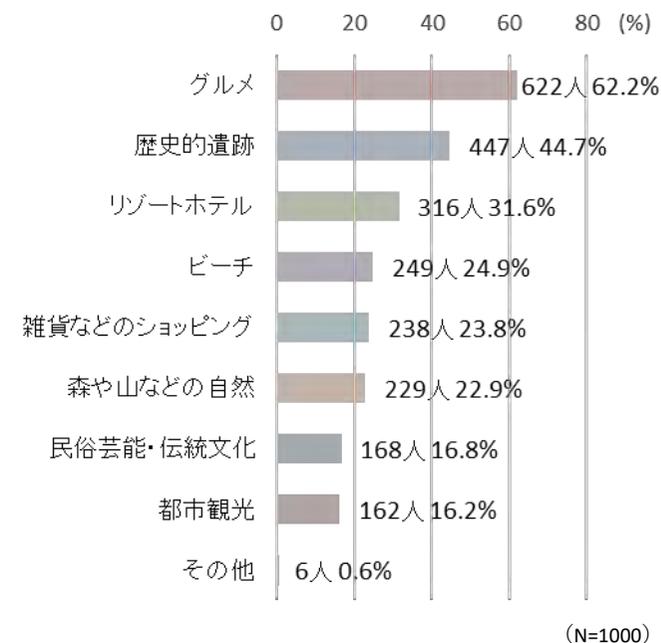
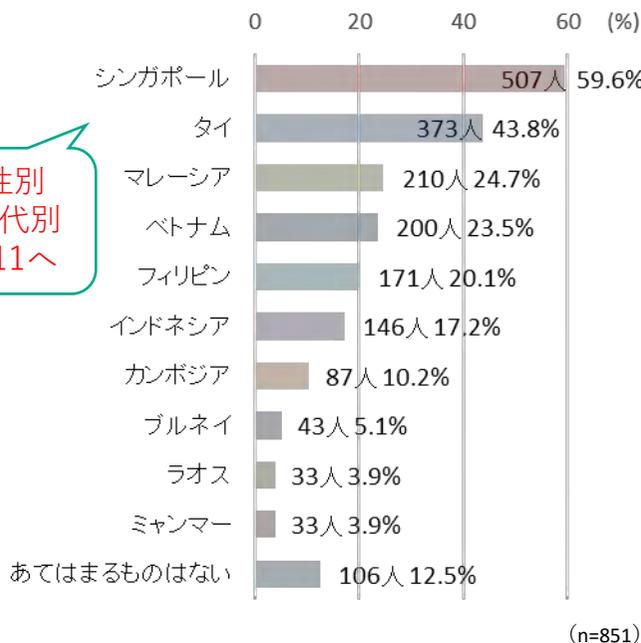
ASEAN加盟国に行ったことはありますか。行ったことのある国をすべてお答えください（複数回答）

ASEAN加盟国で行ってみたい国を3つまでお選びください（複数回答）

ASEANの観光で、思い浮かぶイメージを以下から3つまでお選びください（複数回答）



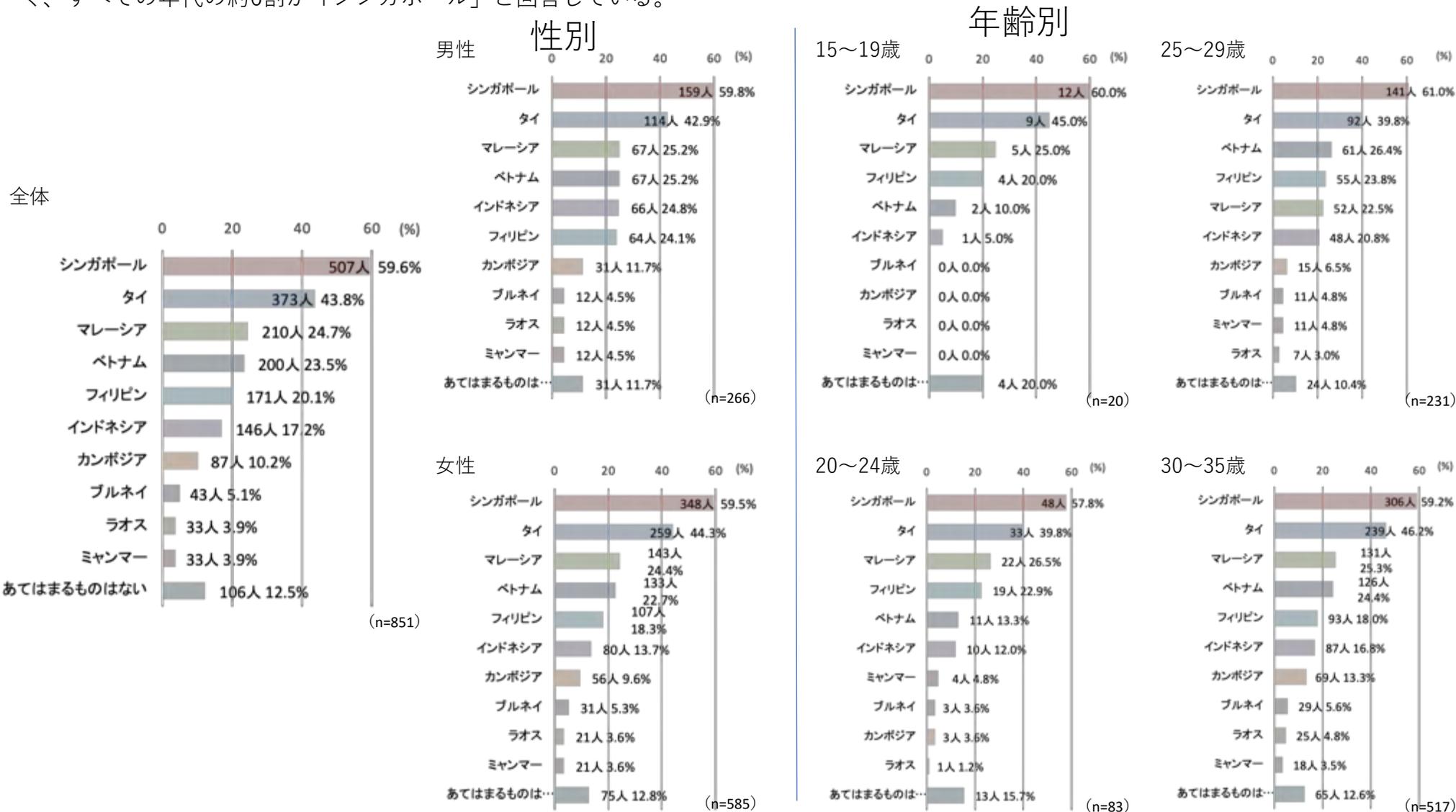
性別
世代別
P11へ



III 調査結果

<性別、世代別> ASEAN加盟国で行ってみたい国を3つまでお選びください。（複数回答）

男女別では、人気の国の順位に差はなく、シンガポールに次いでタイ、マレーシア、ベトナムの人気が高い。年代別でも人気順に大きな差はなく、すべての年代の約6割が「シンガポール」と回答している。



<座談会> ASEANについて思い浮かぶイメージ

●20代

「怖い?」「英語が通じない?」 治安や衛生に対する偏ったイメージも

・調べてみると行きたいと思うが、海外旅行経験がないので怖い。本当に行くかどうかと考えると可能性が低くなってしまふ。例えば治安、スリが怖い。何かあったとき、自分では何もできなさそう。言語も自信がないので、もし何かあったらと考えると。アジアでよくお腹壊すのが怖いという声も聞くが、そういう怖さもある。

・東南アジアは治安が悪かったり、空気が悪いイメージがあって、行くのをためらう。衛生的なことも気になる。好きなYouTuberがタイに行った時の話をしていたが、水が汚いとか、川に動物の死体が浮いていたというのを聞いて、日本では考えられないのでちょっと遠ざけてしまふ。

・友達と「海外旅行どこ行く?」というときに最初にASEANを選ぶことは多分ない。観光学部の友人とかと卒業旅行でどこに行きたいかという話をするときに出るのはヨーロッパ。ASEANは近場だから行きやすいけど、治安などが良いのか悪いのかわからない。

受けるイメージはパワフル、エネルギッシュという声も

・発展途中のイメージがある。ベトナムに行ったときはすごく貧困という感じもせず、かといってすごく発展しているわけでもないみたいなイメージを受けた。タイは友達から話を聞くと、日本のコンビニが進出していたり、発展途中でこれからどんどん伸びていくんじゃないかなというイメージが強い。

・とにかく多民族というのが第一のイメージ。宗教も入り交じって活気にあふれているイメージもすごくある。都会と地方の差もあるとは思いますが、パワフルに発展しているというイメージがある。

・ご飯がすごく美味しいというイメージ。普段も外食でタイ料理屋はよく行く。

・発展途上みたいなのと、なおかつエネルギッシュなところがあるイメージをなんとなく持っている。マーケットとしてもすごい可能性があるなど。何かインパクトのあるものがポンと投げ出されたら、すごい勢いで広がるんじゃないかと思う。

リゾートや貧困など、断片的かつ一面的。情報不足からかASEANに対するイメージは乏しい

・なぜ今まで行ったことがないかと考えると、やはり情報や知識が少ないことが主な原因か。調べれば情報はあると思うが、普通に生活していたらアメリカやヨーロッパの方がテレビなどを通して知る機会が多い。

・就活が終わったらシンガポールに行ってみたい。これもインスタ映えというか風景を気にしてしまっているが、ジュエル・チャンギ空港にどうしても行ってみたい。魅力的な空港なので。

●30代

経済発展が目覚ましく、日本を追い抜く勢いの国々。多くの日本人が抱く「日本がアジアで1位」のイメージに危機感も

・ASEAN=東南アジアと考えると、本当に日本と変わらなくなってきている、むしろ日本より経済発展している、とよく一緒に旅する人と当たり前のよう話している。

・日本の中にも東南アジアに対する情報格差があって、東南アジアは日本の下だと思っている人がまだいっぱいいることを強く意識した。

・東南アジアに初めて行ったのは10年近く前。怖いとまではいかないけれど、雑多で物価が安くて、いい意味で異文化で、非日常というイメージが色濃かった。でも最近は経済がすごく発展していて、日本より全然稼ぐ力があるんじゃないか、日本は置いていかれるんじゃないかという感覚に行く度に覚える。

・親世代が「日本はアジアで1位」と言うのは、私たちの感覚からすると怖い。置いていかれることを理解していない日本人がいることが怖い。日本が1位だと永遠に思っている日本人がいるのは、やっぱり旅する人が少なくて、日本を客観視できる人が少ないのかなと思う。仕方ないけれど、情報量が足りていない。

・ASEANと聞いた時に、学校で習ったなと思った。東南アジアと言われるとずっと入ってくる。

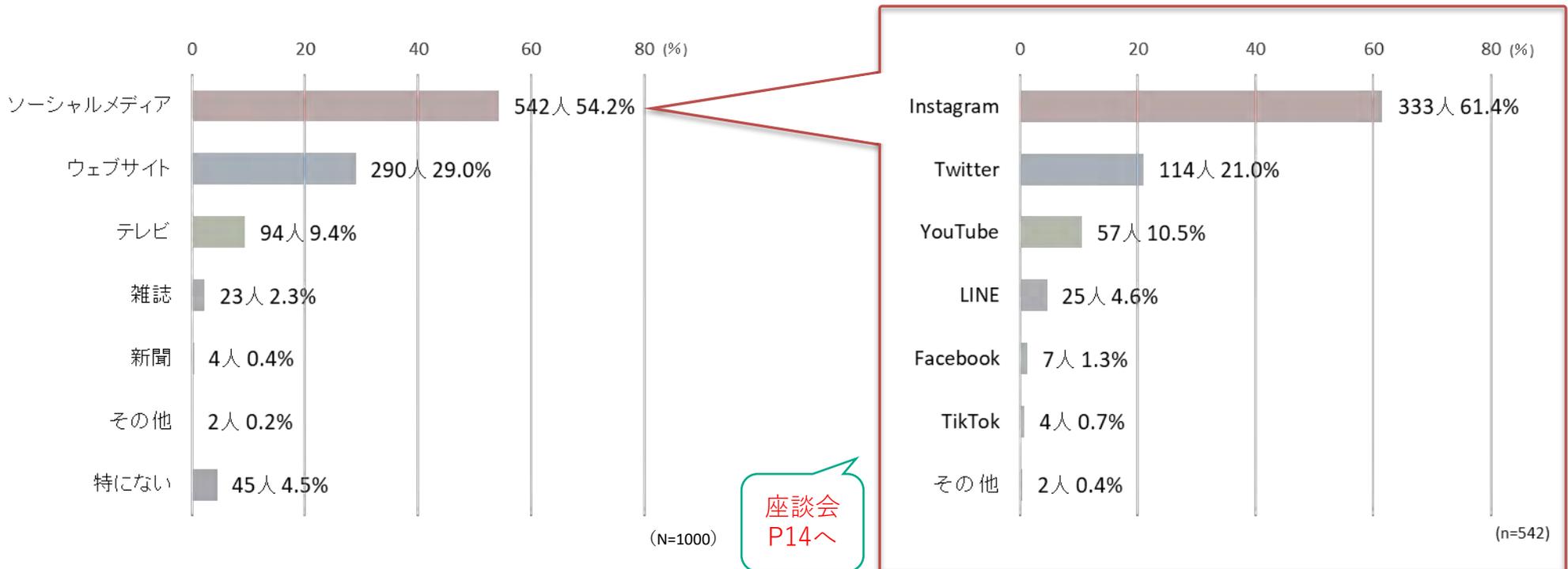
5. 情報収集について

海外旅行の情報収集源として最もよく利用されているソーシャルメディアはInstagramで6割以上が利用

もっともよく利用している情報源、情報収集ツールとしては「ソーシャルメディア」という回答が最多で5割強を占め、次が「ウェブサイト」で約3割、3位が「テレビ」で約1割となった。海外旅行の情報収集源として最もよく利用されているソーシャルメディアはInstagramで回答の6割以上を占め、約2割を占めた2位のTwitterに対して大きな差をつけた。15～35歳の若年層にとって、Instagramは海外旅行の情報源として非常に高い影響力を持つことが見て取れる。

もっともよく利用している情報源、情報収集ツールを教えてください

海外旅行の情報収集源として、どのソーシャルメディアをもっともよく利用していますか。1つお選びください



座談会
P14へ

< 座談会 > 情報収集について

●20代

Instagramでの情報収集がメイン、プラスでTikTokも活用。最初の旅行先の接点はテレビやガイドブックも

・Instagramがメインだが、TikTokでもたまに調べる。アメリカに行ったときによく使ったのがGoogleマップ。Googleマップは例えばレストランを調べるといっばい出てきて、そこから個人のサイトに飛ぶルートができていたので、お世話になった。

・最近ガイドブックは買わなくなったが、国内旅行では道の駅などに行って、紙の資料をもらったりという情報収集が多い。

・Instagramとウェブサイトがメインだが、ガイドブックも結構使う。インスタやウェブサイトは自分が興味あるもの、調べたものしか出てこないが、ガイドブックは全然知らないところや、今はまだそんなに興味ないけどこれから興味を持つところとかも出てくるので、こんなところもあるんだと思う。

・Instagramとウェブサイトで半々ぐらいのイメージ。Instagramは個人の投稿が多いのでとっかかりやすいが、詳しいところまでわからないことがあるので、そこからキーワードをウェブで検索したり、行き方を調べる。

・テレビから入ることが結構多い。「旅サラダ」という番組を家で見ることが多い。旅番組だけではなく、バラエティなども行きたい場所を知る接点になることが多い。

・1つ目がInstagram、Twitterで、特にTwitterはバズっていると目に付きやすいので、こんな綺麗なところに行きたいなと思うことは多い。2つ目が、友達の口コミでこれも結構大きい。「ここ良かったよ」とかInstagramのストーリーに載せていたりすると、こんなところがあるんだ、行きたいなと思う。3つ目が漫画で、漫画を読むのが好きなので、登場する「聖地」に行きたいと思う。

目的地を決めるのも現地事情を調べるのもSNS。TikTokやYouTubeなど視覚的な情報のウェイトが大きい

・旅行先のグルメや景色、アクティビティなどを紹介しているYouTubeのチャンネルをフォローしている。検索・おすすめ表示に関連する投稿がいっぱい出るので、面白そうだな、美味しそうだな、綺麗だなというものをチェックして保存する。

・まずはTikTokで流れて来た観光地を良いなと思ったら、いいねを押して保存しておく。次にInstagramで検索してどんな景色があるのかを見て、最後にどうやって行くかはYouTubeで見る。今のYouTubeは手続きが全部載っているので。来月の韓国旅行もYouTubeで見て手続きをした。国内旅行の情報収集もだいたい同じ流れで、ガイドブックはまったく読まない。

・行き方や所要時間や料金をVlog（旅好きな人のチャンネルなど）で見る。まったく同じ旅行プランにはしないし、行く前にいろいろ知ってしまうのも悲しいが、とりあえずこんな雰囲気なんだなということはわかる。

●30代

ナマの情報はTwitter、撮影場所はInstagramで検索。Web記事、ガイドブック、小説や映画も情報源

・リアルタイムの情報は真っ先にツイッターで検索する。また、ツイッターのフォロワーは自分と感覚が近いので、おすすめの観光地を聞いて教えてもらうパターンも多い。

・職業柄、その場所で何が撮れるかの情報を探す時はインスタが便利。写真を撮りたいカフェや場所を検索することが多い。

・インスタやツイッターに載っているような映える観光地の情報にはあまり興味が向かず、旅仲間との会話から行き先が決まったりする。Wi-Fiやホテルの状況、そのエリアでどういう仕事の仕方ができるかなどのディープな情報がほしい時は、Webで記事化している人のものを読む方が自分にとっては得られる情報が多い。

・一次情報が落ちてるのはツイッターが多いため、旅に関してはツイッターがほとんど。PCR検査の場所や入国できるかどうか等、良い意味でも悪い意味でも生の声落ちてくる。

・ガイドブックを読んだ後で、気になるところや最近の写真の撮り方をインスタで検索したり、ツイッターで1000いいね以上ついているツイートを画像検索している。みんなが写真をどう撮っているのかを見るためにインスタとツイッターを使う。プラスTipsで、TikTokで最近の若い子がどんなものを見ているかを見る。

・好きな映画や小説をベースに行く場所を決めることもある。

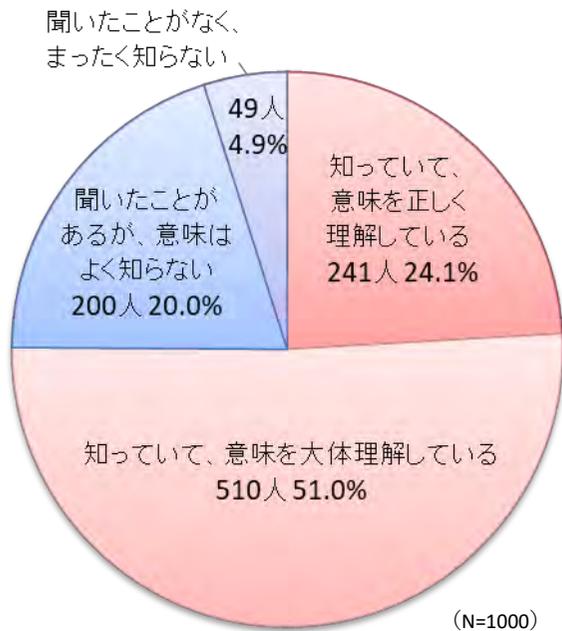
6. 持続可能な観光について-1 (基本編)

座談会
P16へ

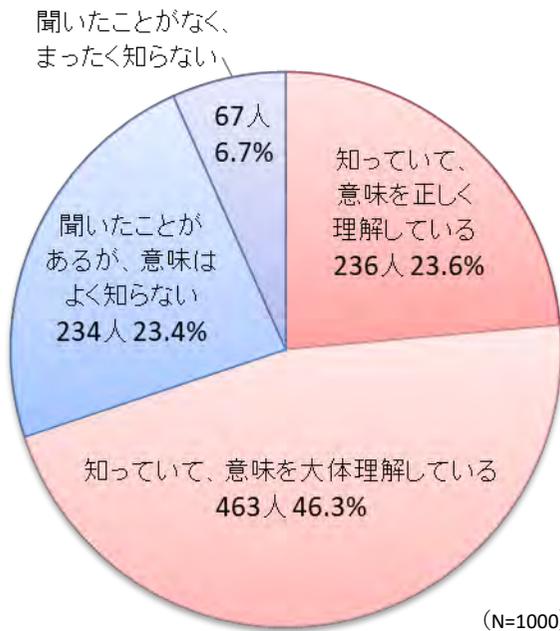
「SDGs」「サステナブル」の意味を理解している回答者は約7割、「普段の生活で意識して行動している」のは約6割

SDGsとサステナブルという言葉の意味について、それぞれ個別に認知度を調査した。いずれも「知っていて、意味を大体理解している」が約5割、「知っていて、意味を正しく理解している」が2割強で合わせて約7割が意味を理解しており、「聞いたことがあるが、意味はよく知らない」が約2割と、SDGsとサステナブルという言葉の認知度は、ほぼ同じという結果が明らかになった。「普段の生活でSDGsやサステナブルを意識して行動している」とする回答者は約6割と半数を超える結果となり、日常的にサステナブルを意識して生活している若年層が多いことが伺える。

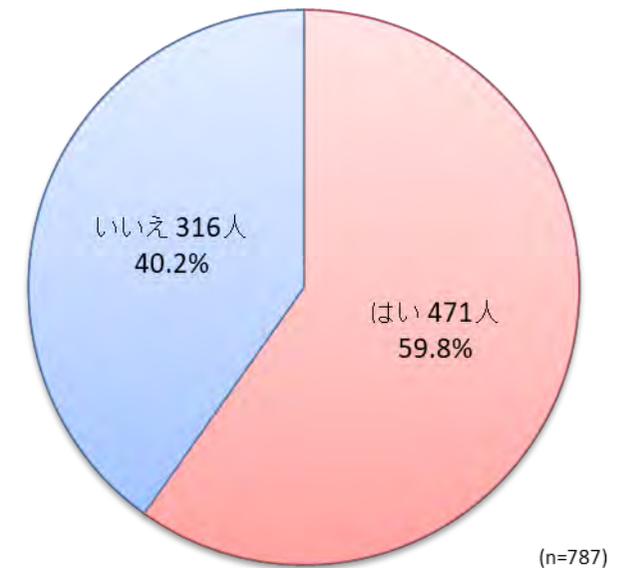
SDGsという言葉をご存知ですか



サステナブル (持続可能) という言葉をご存知ですか



普段の生活でSDGsやサステナブルという言葉を意識して行動することはありますか



※「SDGsという言葉をご存知ですか」、「サステナブル (持続可能) という言葉をご存知ですか」の質問に、「知っていて、意味を正しく理解している」「知っていて、意味を大体理解している」のいずれかをチェックした人だけが回答

< 座談会 > SDGsやサステナブルに関する意識

●20代

バイトを通じて、企業の取り組みを冷静に見る視点を育んだ。「自分にメリットがあり、かつサステナブル」を選ぶ

・某コーヒーチェーンのコップがプラスチックなのに、紙ストローなのは意味があるのかなと思った。友人は「紙コップにプラスチックのストローの方が絶対飲みやすい」と言っていて、確かにそうだと思う。SDGsが押しつけになってしまったら良くない。本当に意味があることだったら、自分も意識したいと思う。

・カフェでバイトをしており、SDGsについてはバイトを通じて考える機会がある。SDGsに貢献するということでドリンクにプラスチックの蓋をつけるか、お客さんに確認をとっているが、そもそも商品が過剰包装だったりして「あれ？」と思うときもある。ごみ出しの時もこんなにプラスチックが出ていると思うし、このせいで海洋汚染が起これりウミガメなどが可哀想なことになっていると思うこともある。

・沖縄旅行を計画中だが、ホテルを探すときに、連泊は清掃なしで安くなると記されているとこっちにしようとする。自分に直接関係のあることであれば考える。サステナブルでちょっと価格が高いなら正直手は出さない。お得で、環境負荷も低減されるなら利用するという感じ。

リサイクルやフードロス削減を日常から意識。「洋服の使い捨て」より古着を長く着たいという声も

・環境面のSDGsは割と心がけるようにしている。マイバックやマイボトルをなるべく持ち歩いたり、ペットボトルを集めてイトーヨーカドーでリサイクルに出すとnanacoのポイントが貯まるというサービスがあり、家族で集めてまとめて出したりしている。

・SDGsを意識するというより、リサイクルをするように心がけている。なるべくプラスチックや紙などを分別して出すようにしている。

・古着を買うことが多い。自分の服をマーケットに出すまではできていないが、いわゆるファストファッションを買ってどんどん捨てるのではなく、古着など買った洋服を長く着るようにしている。

日本の社会全体がSDGsを意識し始めていることをアルバイトや就活、旅行を通じて感じている

・アルバイト先のファミレスでは、ドリンクバーのプラスチック容器が少し前に紙に替わった。お客の人数分出していたおしぼりをセルフサービスにしたら廃棄する量がすごく減った。そういうちょっとした変化が社会に行き渡っていると感じる。

・就活を始めてから、（企業が）SDGsを意識した取り組みをしているという話を説明会などで聞くようになり、SDGsがいろいろな場面に浸透している印象を受けている。

・SDGsという言葉は大学の授業で知った。自分が意識しているのは、環境面というよりは「世界中の人に同じような教育を」などの項目。

●30代

サステナブルな行動のモチベーションは、地球のためより自分自身の楽しみやメリットが勝る

・自分のアンテナが立っている時は、ペットボトルを買わず水筒を持ったり、ビニール袋をもらわないようにしているが、いつの間にか忘れてしまい身に付かない。

・特に旅先ではサステナブルを意識するよりも、今ここでしかできないことをやりたいという気持ちが先立ってしまう。

・タイのチェンマイではテイクアウトのカップやストローがノープラで、日本のカフェよりサステナブルの意識が高い印象がある。バリ島のスーパーにはオーガニックのもの、乳製品や肉に代わるものが並んでいる。バリ島で洗って使えるストローを買ったけれど、日本では使っていない。

・スーパーでビニール袋をもらわないのは、自宅のゴミ出しに有料の袋が必要なのでもらっても意味がないから。エコバッグを使うのも、環境のためというよりかわいいエコバッグを使うとテンションが上がるから。

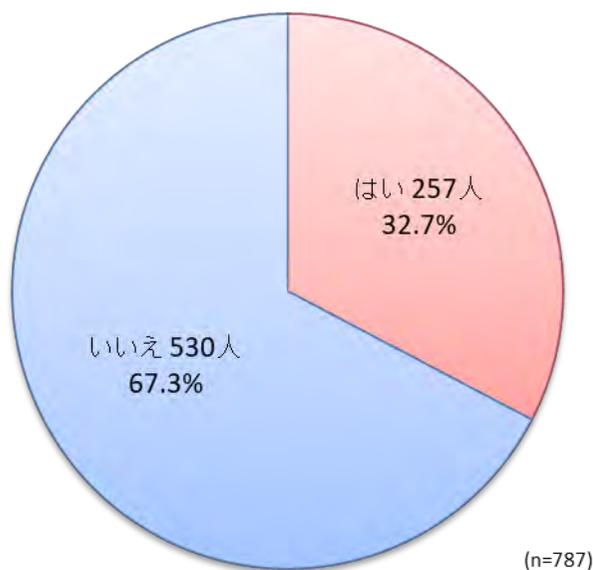
・ドイツでは国レベルでエコを推していて、スーパーも値段の安さや輸入食品の多さなどではなく、どのぐらいエコ視点があるかでジャンル分けされている。ファッション感覚もあるかもしれないが、エコな人がクールというのが根付いている。

6. 持続可能な観光について-2 (旅行の意識編)

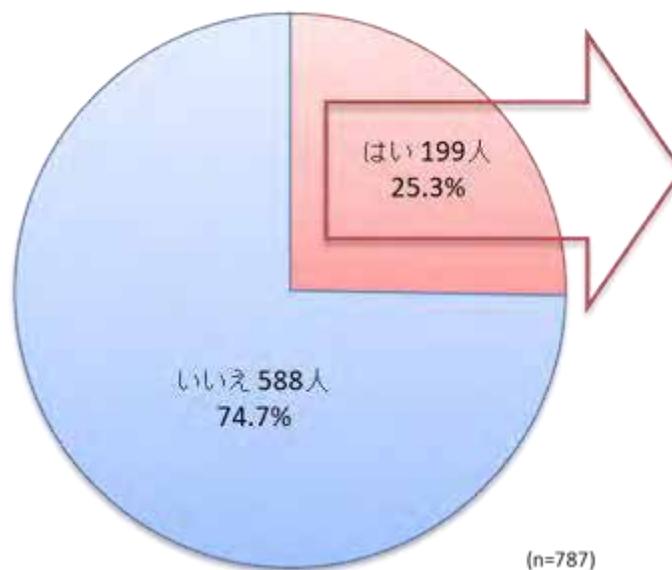
3割が観光目的地選びでSDGsやサステナブルを意識、選ぶ基準は「地産地消の流通を優先」「サステナブル基準の設定」が半数以上

「旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識する」、「旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識した観光地や観光施設を選んだことがある」という回答は共に約3割を占めた。「旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識した観光地や観光施設を選んだことがある」とした回答者に基準を聞いたところ、「地産地消の流通を優先している」が最多で61.8%を占めた。注目は「国際基準、自社独自など何らかのサステナブル基準が設けられている」が2番目に多く5割以上を占めている点で、サステナブルな観光を行うにあたり、客観的で明確な基準を求めていることが伺える。

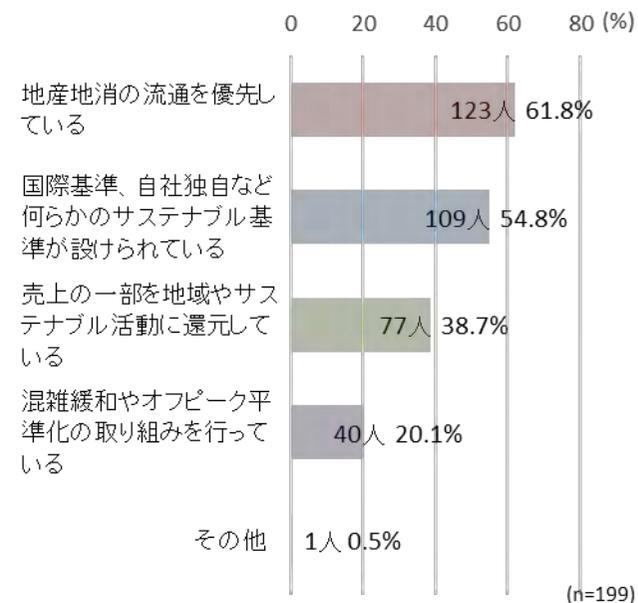
旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識したことはありますか



旅行をする際にSDGsやサステナブルを意識した観光地や観光施設を選んだことはありますか



どういう基準でサステナブルを意識した観光地や観光施設を選びますか。あてはまるものをすべてお答えください (複数回答)



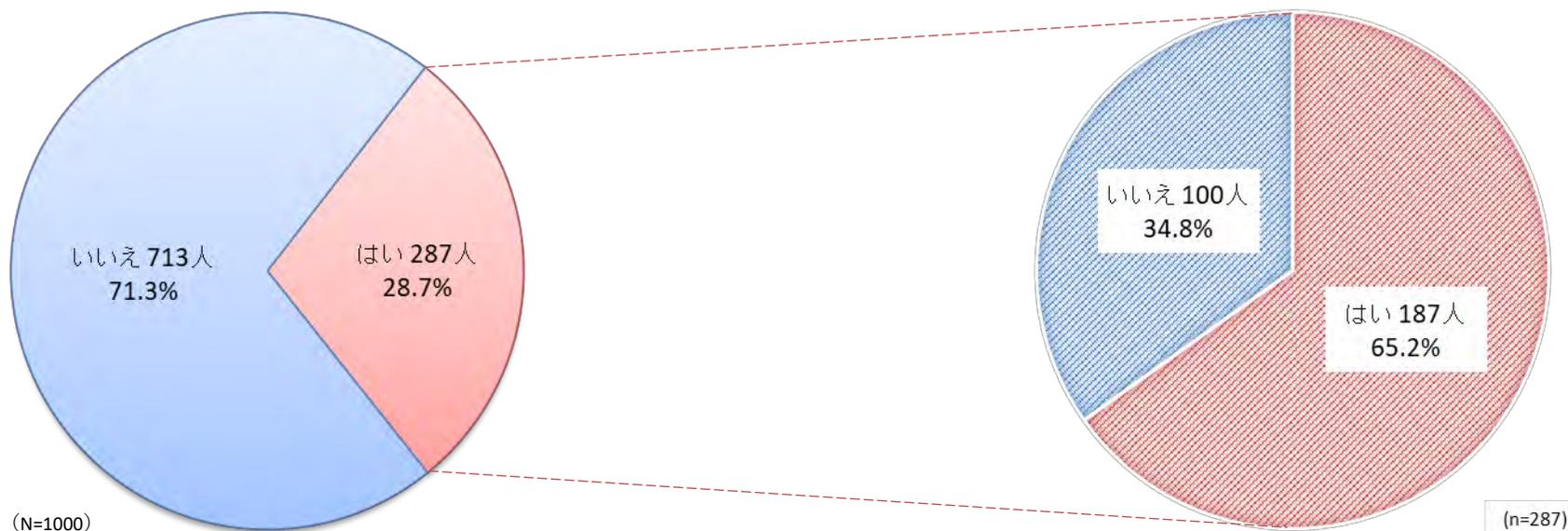
6. 持続可能な観光について-3（認証制度についての意識）

予約サイトのサステナブルな宿泊施設の絞り込み機能を3割が認知。認知している6割以上が機能の活用経験あり

「ブッキング・ドットコム」や「楽天トラベル」などの宿泊予約サイトで、サステナブルな取り組みを行っている宿泊施設の絞り込み条件は、比較的新しい機能にも関わらず、約3割が「知っている」と回答した。また、これらの機能を「知っている」とした回答者の6割以上が「実際にこうした絞り込み条件を使ったことがある」と回答しており、宿泊施設のサステナブルな取り組みに対する関心はかなり高いと考えられる。

宿泊予約サイトの「ブッキング・ドットコム」や「楽天トラベル」などでは、サステナブルな取り組みを行っている宿泊施設を絞り込んで探すことができます。こうした取り組みについてご存知でしたか

実際にこうした絞り込み条件を使って、宿泊施設を検索あるいは予約したことがありますか



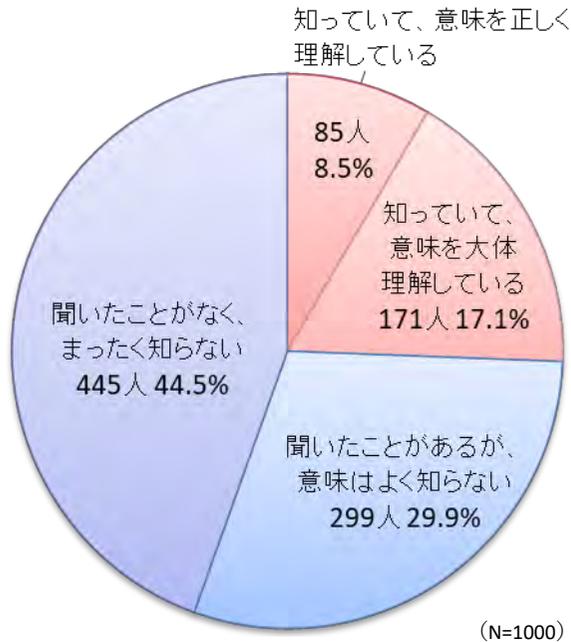
6. 持続可能な観光について-4 (サステナブル・ツーリズムの概念について)

サステナブルツーリズムの意味を理解している割合は25%、必要とされる3つの取り組みはいずれも約8割が「必要」と回答

座談会
P20へ

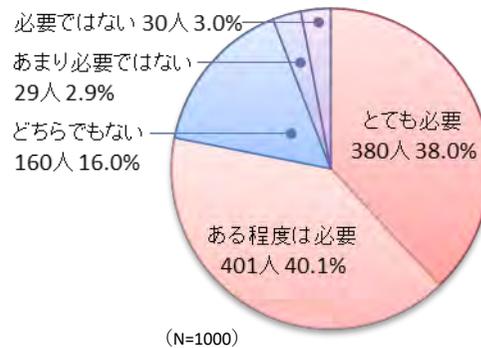
「サステナブルツーリズム」という言葉について、「まったく知らない」という回答が45%を占めたが、「聞いたことがある」が約3割、「意味を大体理解している」「意味を正しく理解している」が合わせて25%を占めた。サステナブルツーリズムで必要とされる3つの取り組みについては、いずれも「とても必要」が約4割、「ある程度は必要」も約4割を占め、合わせて8割が必要を感じていることがわかる結果となった。

サステナブル・ツーリズム
(持続可能な観光)
という言葉をご存知ですか

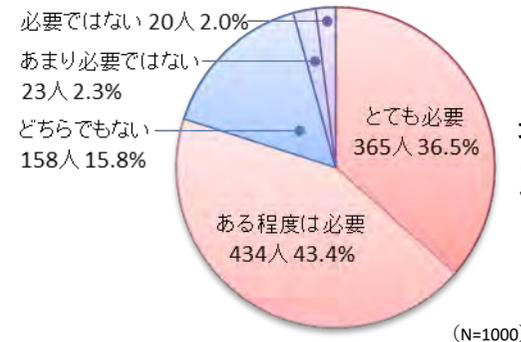
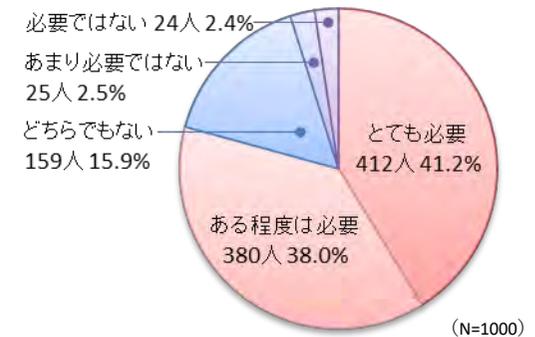


以下の3つはサステナブル・ツーリズムに必要とされる取り組みです。それぞれについて、あなたの考えはどれですか

地域の自然や生物多様性などの環境を保全しながら、最適な形で活用する観光



地域の建築などの文化遺産、住民の生活や伝統的な価値観が訪れた観光客から尊重される観光



地域に安定した収入や雇用をもたらす、関わる人すべてが公平な形で利益を得られる観光

<座談会> サステナブルツーリズムについて

●20代

言葉の認知度は低く、環境配慮のイメージという回答が大半

- ・サステナブルツーリズム=環境配慮みたいなイメージを持っていた。
- ・この言葉を、今回初めて知った。調べてみると環境に配慮する観光地が増えていることを知り、ごみの分別などをすることが空気汚染や地球温暖化を防ぐと思った。公共交通機関を使うことで排気ガスも減らせると思う。
- ・ポイ捨てに気をつけている地域だから、そこに行こうとはならない。たまたま行くところが綺麗ならいいな、みたいな感覚。
- ・サステナブルツーリズム=環境配慮とか、何か新しく作るのではなく、ありのままの資源を有効に使うイメージが強く、オーバーツーリズムと関連しているのは正直今初めて知った。旅行の際に地域の人と関わりたい思いは私自身あるが、住民の暮らしまでは考えたことがなかった。
- ・旅行に行くと地域の露店みたいなところで果物や野菜を買ったり、地元のスーパーに行くことが多いが、そうしたこともサステナブルツーリズムにつながるのかなと思う。
- ・富士宮でインターンに参加したとき「自然がただと思っている日本人は多い」という話を聞いた。そうではなく価値があるものだとみんなが捉え、それに対価を払って体験する形になっていくと、持続のループが見えてくるのかなと個人的には解釈している。

環境に負荷をかけない旅行に興味はあるが、現実の旅行費用は安く抑えたい

- ・その土地の自然や文化を活かした観光というイメージ。自然を楽しむアクティビティが好きなので、魅力的（な観光のあり方）だと思う。観光は何もしないと（放っておくと）消費してしまうだけなので、環境を壊さない取り組みを意識してやっている場所やその形がサステナブルツーリズムだと考えている。
- ・マルタにはSUP&ヨガのツアーがあった。時間がなくて参加できなかったが、消費するものが少なく、資源もあまり使わないのでサステナブルかなと。

・カナダでのホームステイはアルバータ州のかなり田舎だった。ホストファミリーが日本に来た時、ペットボトルのキャップ用のゴミ箱を見て、ペットボトルを分解している文化にすごく驚いていた。

●30代

言葉自体に馴染みはないが、全員が旅先で体感している。これからは旅先に貢献できるような行動を起こしていきたい

- ・2018年ぐらいにベトナムの奥地の民族に会いに行くトレッキングツアーに2泊3日で参加したこと。その民族の家にお邪魔して一緒にご飯を作ったり、村で寝泊まりするツアーで、参加者はいろいろな国の人で20人ぐらい。ベトナムにこんな文化があるんだ、こんな暮らしがあるんだ、という感動があって、あれはサステナブルツーリズムだったのかと。
- ・一方で、ツアー代金はあの村に本当に落ちているのか、大人数でトレッキングをして自然は荒れなかったのか、という疑問があった。村にWi-Fiが通っていたことも衝撃を受けた。シャワーも温水が出て便利だけれど、観光化されていることで本来の文化を壊しているのではと、けっこうモヤモヤした憶えがある。文化を体験する、地元にお金を落とすことは、実は難しいのかなと感じた。
- ・サステナブルツーリズムという言葉自体、あまり聞いたことがなかった。ガソリン以外のエコな車に乗って海岸のゴミ拾いする旅行、みたいな印象がある。自分がサステナブルツーリズムに貢献する何かをしているというのもあまり感じない。
- ・ハワイ州では宿泊税を徴収するが、そのお金を使って旅行客を分析して、観光がさらに潤うように観光業者に公開するなどバックしている。その話を聞いてから、日本の入湯税や京都の宿泊税に対して悪いイメージを抱かなくなった。以前はドミトリーに泊まってどれだけ安く長く滞在するかという旅をしていたので、数百円高くなるならあっちでよかったかと思った時もある。でも今は、次に自分たちが旅するために使われるなら問題ない。ただ、適切に使われているかは正直わからない。
- ・SNSでバズって一時的に観光客が来ても、長い目で見ると地域のためにならない現象はよく起きていて、自分自身もその悪循環を作る小さな歯車の一つになっていないとも言いきれないのがもどかしい。でも旅をし続けたいと思った時に、その土地に息長く観光できるような知識を身に付けたり広めたりできたら、サイクルがもう少し良い方向に行くんじゃないかと、その経験を通じて考えた。

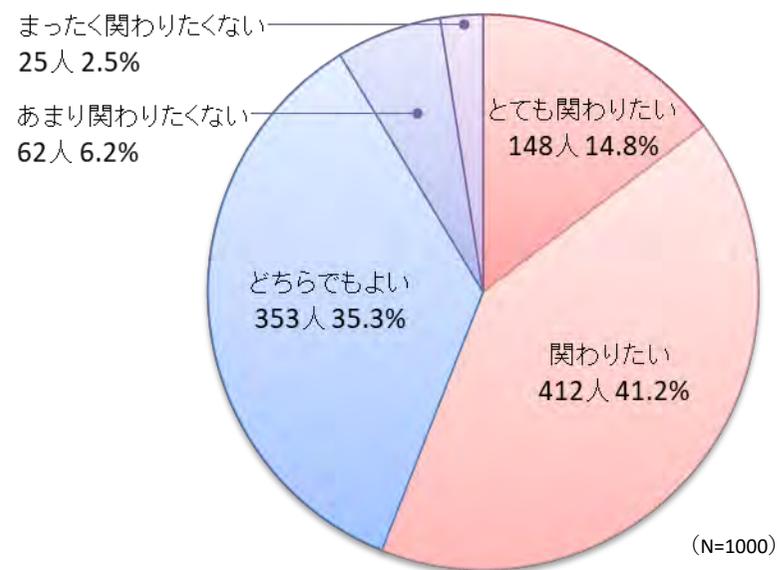
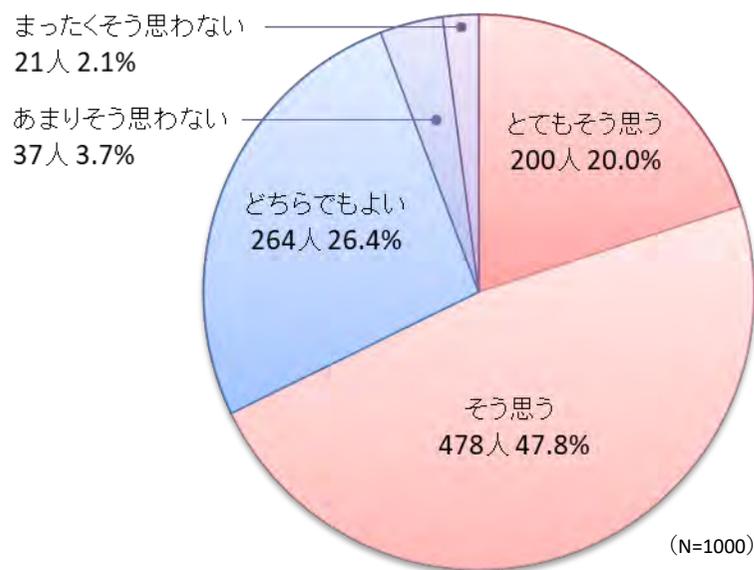
6. 持続可能な観光について-5（レスポンスブルトラベラーとしての意識について）

回答者の約7割が「訪れた地域に利益ある消費をしたい」、過半数が「地域の持続可能性に関わりたい」

レスポンスブルトラベラー（責任ある旅行者）としての意識を知るために2つの質問を行った。「観光で訪れた地域の事業者（農家、地域に根ざした宿泊施設やお土産製造会社など）に、確実に利益をもたらす消費をしたいか」の回答は「そう思う」が半数弱、「とてもそう思う」が2割で合わせて7割弱となった。「自分が訪れることで、旅行先の地域の持続可能性に貢献できるとしたら、積極的に関わりたいか」の回答は「関わりたい」が約4割、「とても関わりたい」が14.8%で合わせて56%と、半数を超えた。

観光で訪れた地域の事業者（農家、地域に根ざした宿泊施設やお土産製造会社など）に、確実に利益をもたらす消費をしたいと思いませんか

自分が訪れることで、旅行先の地域の持続可能性に何らかの形で貢献できるとしたら、積極的に関わりたいと思いませんか



6. 持続可能な観光について-6 (ASEANの「持続可能な観光」に関する意識)

ASEAN加盟国で行われている持続可能な観光について、具体的な取り組みをご存知ですか。もし知っていたら、わかる範囲で記入してください。知らなければ「なし」とご記入ください。

●観光の概念

マイクロツーリズム
グリーンツーリズム

●エネルギー関連

自然エネルギーの発電
エネルギーの貯蓄
低炭素でクリーンな天然ガス
ソーラーパネル
環境に負荷の少ない燃料を使用する

●文化の保護

民俗伝統工芸品
文化的な遺産の再利用
文化的価値

●環境の保護

環境保持
環境保護、保全
水の循環
街並みの清潔

●行動

いいと思ったことをする

●税の導入

入域税のようなものを導入している

●啓発

環境にやさしいイベント

●交通

トラムを使用させるための1日券発行など

●平等

体の不自由な人にもそうでない人にも平等に観光の機会を設けている
細かい内容まではわからないが、発展途上国の人々が老若男女に渡り持続可能な取り組みをしているのをCMで拝見したことがある。

●ゴミ

ゴミ拾い
ゴミ処理
ゴミの分別の促し
ゴミを減らす

●ガス

観光時に排気量を減らす取り組みをしている

●概念

インタープリテーション計画研修、サステナブル・ツーリズム

●ASEAN諸国の具体的な取り組み

タイにあるエコリゾート
シンガポール→大型国内貯水池の建設
フィリピンでサシバという猛禽類の観察を通じたエコツアーや、フィリピンイーグルの観察を通じたエコツアー
ネイチャーツアー、シンガポールシティバイクツアー
ゴミのポイ捨てを法律で罰するシンガポールの取り組み

●貧困問題

貧困の解消

6. 持続可能な観光について-6 (レスポンシブルトラベラーとしての行動について)

「同じ内容なら持続可能な取り組みを明示するツアーを選択」が半数、3割強が「1,000円～3,000円未満」の差額を容認

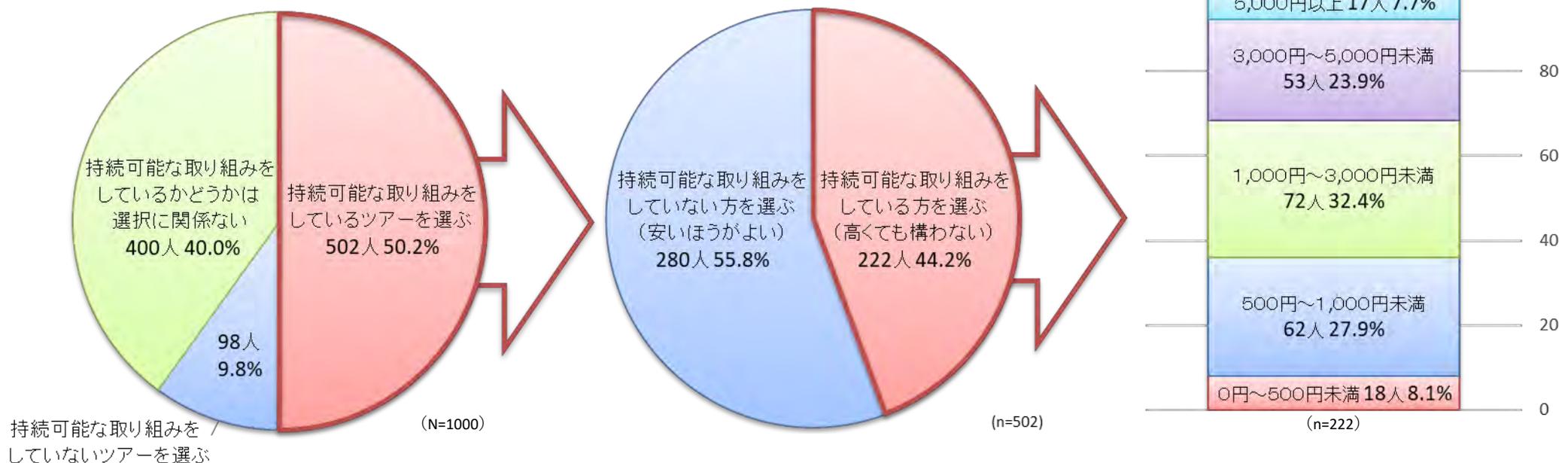
サステナブルツーリズムに対するコスト感覚を測るため、5,000円のオプションツアーを例にサステナブルな取り組みの内容を明示する商品とそうでない商品を比較し、考え方を聞いた。同じ内容・価格の場合、半数が「持続可能な取り組みをしているツアーを選ぶ」と回答。サステナブルな取り組みをしているツアーの場合、4割以上が「持続可能な取り組みをしている方を選ぶ（高くても構わない）」と回答した。高くても構わないとした回答者に、どれくらいまでの差額を払えるかを聞いたところ、最も多い回答は「1,000円～3,000円未満」で3割強を占め、次に多かったのが「500～1,000円未満」で3割弱、3番目に多かったのは「3,000～5,000円未満」で2割強となった。

例えば同じ5,000円で内容もほぼ同じオプションツアーが2つあり、1つは「自然保全、地域への利益還元、CO₂排出削減などの持続可能な取り組みをしている」と具体的に明言している場合、自分の考えに近いのはどれですか

持続可能な取り組みをしているオプションツアーが、そうでない同じ内容のツアーより価格が高い場合、自分の考えに近いのはどれですか

1人あたりどれくらいまでの差額なら払っても良いと思いますか

座談会
P24へ



<座談会> サステナブルツーリズムに支払える金額について

上乘せコストについては意見が分かれる

・安い方がいいので、値段で選んでしまう。竹のアメニティのある宿泊施設に泊まったことがあるが、アメニティが宿の雰囲気すごく合っていた。女子目線から見ればプラスチックのくしより竹の方がかわいいし、しかもサステナブルなら、少し高くてもそっちを選ぶかなと思う。

・正直、高かったら学生ではお金を出せないと思う。社会人になって金銭面に余裕が出たら考えるが、今は難しいかな。

・少しでも自分が消費したものが、良い方向に還元されるといいという感じ。余裕があればそっちを選ぶかなと。でも明確に書かれてないと不安。それが本当なのかという思いもあるので、ちゃんと明記しているところを選びたい。

・同じ値段ならサステナブルな方をとるが、同じ内容で「サステナブルなので高い」と言われたら、正直そっちには行かないと思う。

・同じ値段で、「環境に優しい」とパッケージに書かれていたらそっちを取る。書いてある内容に具体性があれば余計そうだと思う。自分が何か特別なことをしなくても、何か協力できることがあれば協力したいと思う。

・例えばヒルトンやハイアットなど有名なホテルでこの値段で泊まると書かれていれば、このホテルにこの値段で泊まれるならいいかと思うが、例えばSDGsに特化したホテルでこのぐらいの値段で泊まれると言われた時、それが自分にとってどれぐらいの価値になるのか、意識がないとそっちを選ぶのは難しいと思う。

・SDGsのマークを出しているだけだったりすると、信用度が薄いと思うが、「しっかりこういう取り組みをしている」と明確なものを打ち出していれば、金額の差にもよるが、観光で非日常を味わうっていう意味では、個人的にお金がかかれるかなと思う。

・根拠がクリアになっていて、本当にちゃんとそういう活動をやっていることが見えれば、応援したいので1000円でも、2000円でも上乘せして積極的に払いたい。3000円だとちょっと高いと感じるが。ただ口だけだったり、「やってるって、どこが？」みたいな感じだと選択しない。

・安い方を選んじゃうかなと思う。年代的に財力がないところもあり、いざ行くとになったら付加価値があってもなるべくお金払わず、安い方で、となっちゃうのが本音。

・（サステナブルなホテルやツアーに）お金を払うというのは環境のためではなく、（そのホテルやツアーが）魅力的かどうかの判断。楽しく面白くて環境にもやさしければ払うかもしれないが、環境が良くなるというだけでお金を払って参加しようとはなかなかならない。時間とお金があれば良いが、学生としてはたぶんできない。

・結論から言うと安い方が良い。もちろん高くても何かオプションが付いていれば良いが、単に値段が高いただけならやっぱり安い方を選ぶ。あとは、旅行というのは気持ちをリフレッシュしたり、疲れた心を癒やす目的があるので、持続可能な社会を意識していたら疲れてしまう。そういう意味でも安い方が良い。

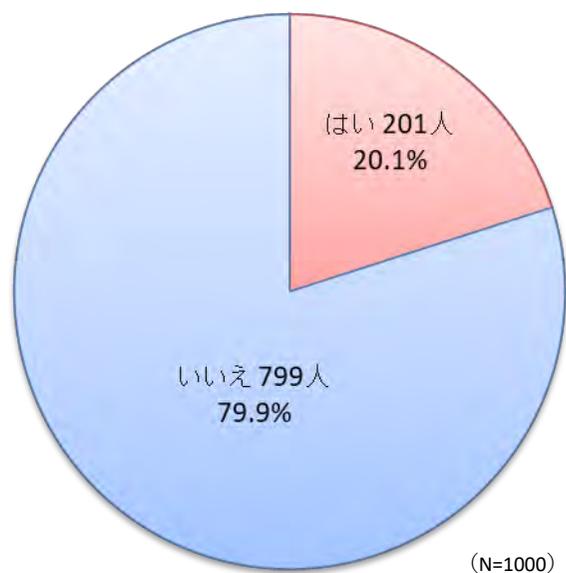
・ツアーの内容による。沖縄県でサンゴを植林するツアーなど、そのツアーに参加しなければできない旅行ならお金を払って参加したい。あとは、学生視点かもしれないが、写真映えするような風景が見られるツアーは意識してしまう気がする。写真撮ってインスタに上げているので。

6. 持続可能な観光について-7（事例編 オーバーツーリズム）

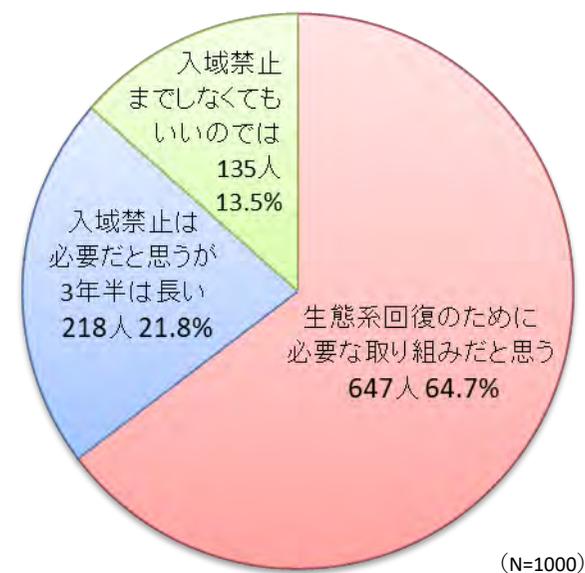
3年半の入域禁止は65%が「生態系回復のために必要」と評価、「必要だと思うが期間が長い」が2割

タイ・ピピ島の事例をもとに、オーバーツーリズムと混雑緩和対策についての意識を調査した。観光客の増加で損なわれた生態系を回復させるため、観光客の入域を禁止した取り組みはメディアでもしばしば取り上げられたが、「知っている」という回答は2割にとどまった。3年半に渡る入域禁止については、65%が「生態系回復のためには必要」と評価した一方、「必要だと思うが3年半は長い」とする回答は2割を占め、「入域禁止までしなくてもいいのでは」は1割強となった。

この取り組みは、ニュースや新聞記事などでも取り上げられましたが、ご存知でしたか



3年半、観光客の入域を禁止した取り組みについてどう思いますか

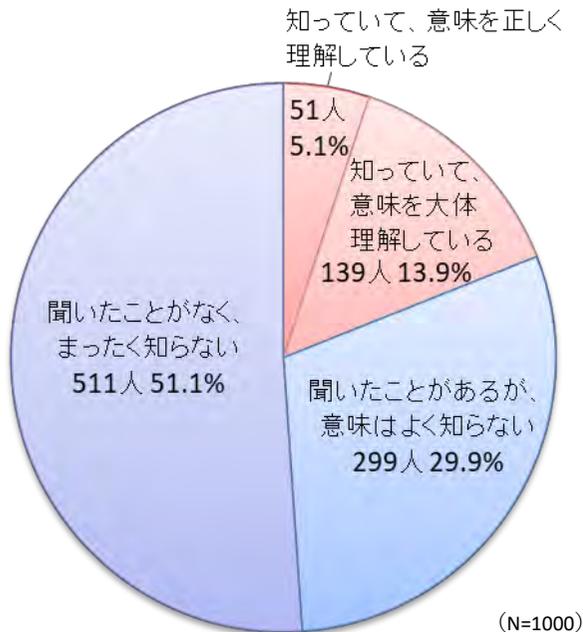


6. 持続可能な観光について-7 (事例編 オーバーツーリズム タイ・皮皮島のマヤビーチ)

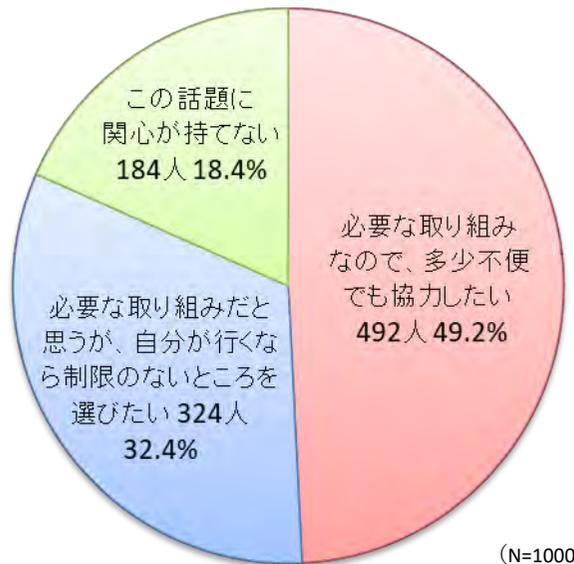
「オーバーツーリズムをまったく知らない」「緩和に向けた取り組みに協力したい」はともに回答者の半数

皮皮島の事例をもとに、オーバーツーリズムと混雑緩和対策についての意識を調査した。観光客の入域を禁止して生態系を回復する3年半の取り組みについて65%が「必要」と評価した一方、「必要だと思うが期間が長い」とする回答は2割を占めた。オーバーツーリズムという言葉については「まったく知らない」が最多で半数を占め、「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」が3割、意味を理解しているという回答は2割にとどまった。オーバーツーリズム緩和に向けた取り組みについては半数が「必要な取り組みなので協力したい」と回答した一方、「必要な取り組みだと思うが、自分が行くなら制限のないところを選びたい」が3割強を占めた。また、事前予約制などの混雑緩和の取り組みについても約6割が「積極的に利用したい」とする一方、「混雑は避けたいが、事前に調べたり、予約するのは面倒」という回答も2割強を占めた。オーバーツーリズムや混雑緩和の取り組みはある程度は旅行者に協力を求めることが可能だが、面倒に感じる層も少なくないことが伺える。

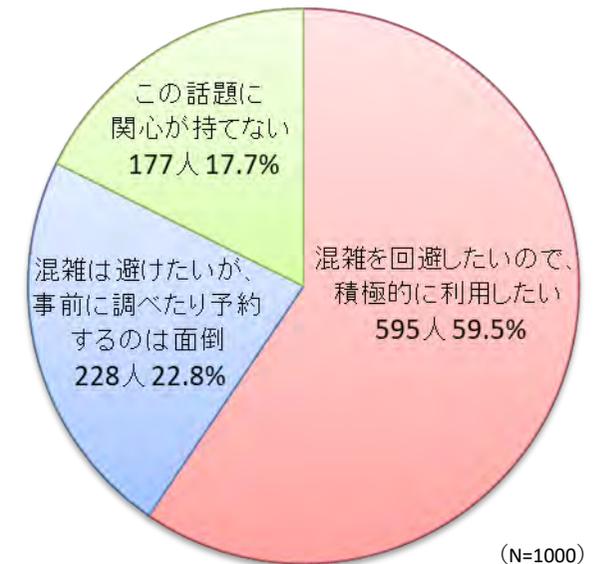
「オーバーツーリズム」という言葉を聞いたことがありますか



オーバーツーリズム緩和に向けた取り組みを行うことについて自分の考えに近いのはどれですか



オーバーツーリズム回避や混雑緩和のため、観光施設がリアルタイムの混雑状況をSNSで発信するなどの取り組みも出てきています。こうした取り組みについて自分の考えに近いのはどれですか

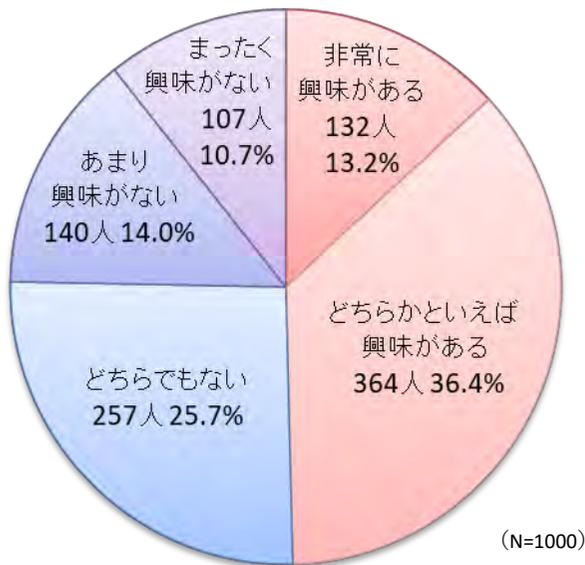


7. ASEANの取り組みについて

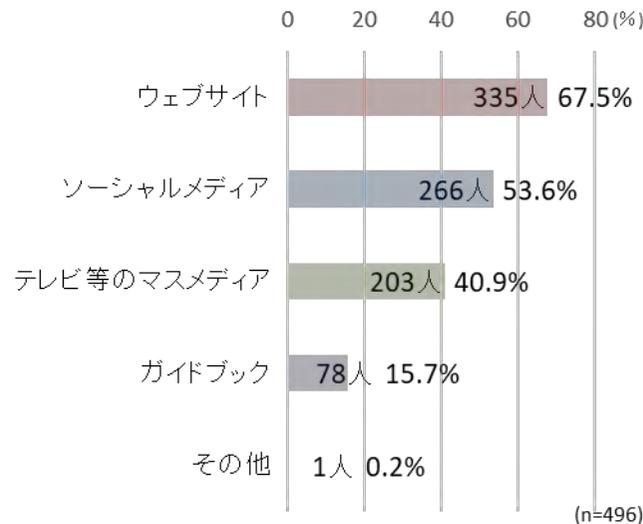
ASEANの持続可能な観光の取り組みに約半数が興味、「取り組みを知ることは次の旅行に影響」と約9割が回答

「ASEANで行われている持続可能な観光の取り組みに興味があるか」という質問に対し、「どちらかといえば興味がある」という回答は4割弱で「非常に興味がある」は1割強と、合わせて約半数が興味を示した。取り組みの情報を入手しやすい手段として最多の回答は「ウェブサイト」で7割弱、「5.情報収集について」でこの世代が情報入手に最も活用しているとされる「ソーシャルメディア」の5割強を上回った。持続可能な観光の取り組みを知ることは次の旅行先の決定に「ある程度影響する」という回答は5割、「大きく影響する」は2割、「影響する」は約15%で、合わせて9割弱が影響すると回答している。

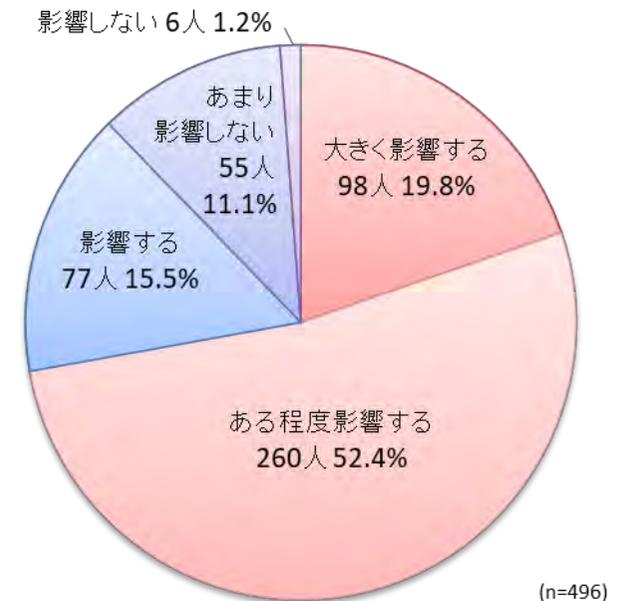
ASEAN10カ国では、このほかにもさまざまな持続可能な観光に関する取り組みが行われています。そうした取り組みについて興味がありますか



そうした持続可能な観光の取り組みについての情報を知るには、どのようなメディアや経路なら入手しやすいと思いますか（複数回答）



そうした持続可能な観光の取り組みを知ることは、次の旅行先を決めることに影響しますか



8. ASEANの情報発信について

ASEANの持続可能な観光の取り組み情報で「参考になる」の最多回答は「政府観光局などの公的機関」で25%

ASEAN10カ国の持続可能な観光の取り組みをソーシャルメディアで知る場合、最も参考になる情報とされたのは「政府観光局などの公的機関」という回答で25%を占め、2番目は「旅行専門メディア」「旅行会社」でいずれもそれぞれ約2割となった。日本アセアンセンターが運営している東南アジア観光情報サイト「ASEAN Travel」を見たことがあるという回答は2割弱、インスタグラムの観光公式アカウントを見たことがあるという回答は1割強にとどまった。

ソーシャルメディアでASEAN10カ国の持続可能な観光の取り組みについて知るには、どのような発信者の情報が参考になると思いますか

日本アセアンセンターでは「ASEAN Travel (<https://travel.asean.or.jp>)」という東南アジアの観光情報サイトを運営しています。このサイトを見たことがありますか

日本アセアンセンターはインスタグラムの観光公式アカウント (@aseanjapancentre) を持っています。投稿を見たことがありますか

一般の口コミ 11人 4.1%

